令和４年度

関係人口創出・拡大のための
中間支援モデル構築に関する調査・検討業務

業務実施報告書
（概要）

団体名	株式会社あしたの寺子屋
事業名	都市部×地方部をごちゃまぜにした越境教育事業を通じた 関係人口の創出・拡大
選択テーマ	まなび関係人口について（しごと関係人口について）

- 教育×地方創生・関係人口創出に向け、都市部×地方部の子ども・大人が関わり合う宿泊型プログラムである「シャッフルキャンプ」を実施した。
- また、全国各地の様々な子ども・大人が「学び」を通じてオンラインで関わり合う取組を実施した。

主な活動内容

1．シャッフルキャンプの実施

- 2022年7～8月に、**北海道美幌町・青森県南部町・鹿児島県与論町で3泊4日の宿泊型オリジナルサマーキャンプ**を実施。
- 地域との繋がりを深め、プログラム終了後も関係が継続することを狙って、**アウトプット制作をプログラムの中核**とした。
- 地域の特性等に応じて、自然体験・カヤック体験・農業体験・マリンアクティビティ・歴史ツアー・文化体験等を実施。

2．オンラインコンテンツの実施

- 当社とパートナーシップを締結する全国各地の寺子屋が**オンライン上で繋がる空間をつくり、**地域に関するクイズを出し合う等、**地域間の繋がりや地域を超えた交流**を生み出す取組を実施。

主な成果

1．参加者や地域の声

- 参加者**21名全員**が事後アンケートに対して**「また行きたい」**と回答し、**「また○○さんに会いたい」「住んでいる地域との違いを感じた」**等の声もあった。
- 地域関係者（体験活動の受入先、メディア関係者等）や地域住民から**「今後も継続して取り組みたい」**等の声があった。

2．事業を通じて得られた気づきや知見

- シャッフルキャンプ期間中、家庭に持ち帰ることのできるアウトプットを制作したことで、参加した子どもたちのみならず、**保護者も含めて関係人口化**することができた。
- 成果を発信・普及していくことで**地域側の様々な関係者からも好反応**があり、今後の継続実施に向けた基盤構築ができた。

美幌町でのプログラムの様子

南部町でのプログラムの様子

南部町でのプログラムの様子

与論町でのプログラムの様子

課題解決のための取組と成果

【課題（１）①】都市部の子どもたちや保護者にとって、地方部での教育・学びの場に参加する価値とは何か？

- 都市部（関東圏等）の子どもたちや保護者にとって、**参加費を払って敢えて地方部での学びの場に参加することの価値**を明確にする必要がある。
- そのため、様々な地域関係者との関わりを持つことのできるプログラム設計とした。

- 参加者への事後アンケート調査では、「今回のシャッフルキャンプは楽しかったか？」「もう一度、○○町に行きたいと思うか？」という設問に対し、**美幌町・南部町・与論町の全ての参加者から「楽しかった」「また行きたい」との回答**が得られた。

【課題（１）②】都市部の子どもたちや保護者が地方部と継続的に関わり続けられる仕組みとは何か？

- 都市部住民がプログラムに参加したとしても、その関わりが一過性になってしまうことは望ましくないため、**長期・継続的に関わる仕組み・仕掛け**を設けることが必要である。
- そのため、シャッフルキャンプを開催した3地域それぞれで**SNSグループを作成し、継続的に関わり続けられる仕組み**を用意した。

- SNSグループの中で様々な情報を発信することにより、単発での関わりにならず、**地域及びその地域に暮らす人々への愛着**が強くなっていたと推察する。

【課題（２）①】地方部として、教育をきっかけに都市部との関わりを持つことの価値とは何か？

- 単に都市部から人を受け入れるだけでは**地方部が疲弊していくという結果になりかねないため、地方部にとっての価値**を明確にする必要がある。
- そのため、地域側が「やりたい」「外の参加者に体験してほしい」と思える自主性を大事にしてプログラム設計を行った。

- シャッフルキャンプを開催した3地域それぞれから**「また実施したい」という強い意向**が得られた。
- また、メディアやSNS等での成果の発信・普及を通じて、その他の**地域関係者もこのような取組の価値と可能性**を感じており、**地方部にもプラスの影響**を生み出すことができたと考える。

【課題（２）②】地方部が自立・自走して取り組むために押さえるべきポイントとは何か？（体制・財源等）

- 常に潤沢に資金的支援や体制的支援等を得られるわけではないため、地方部が自立・自走して取り組むための価格設定・運営体制・広報等の多様な機能の在り方について検討する必要がある。
- そのため、各地域の事業者との丁寧な振り返りを行い、自立・自走して取り組むために必要なポイントは何かを検証した。

- 地域の**様々な関係者（民間・行政）と連携して、体制・資金等を確保**していくことが重要だと分かった。
- 単一の資金策では成立しないことを想定し、①参加者負担、②地方公共団体負担、③企業負担といった様々な手法を組み合わせていく必要性を認識した。

事業実施体制・関係機関

株式会社あしたの寺子屋

- 事業実施団体
- 事業全体の企画設計（シャッフルキャンプの目的・コンセプト・プログラムの設計、広報施策の立案等）

合同会社ALOP（北海道美幌町）	合同会社南部どき（青森県南部町）	株式会社まなび島（鹿児島県与論町）	株式会社worg
• 再委託先① • 美幌町でのシャッフルキャンプの実施に向けた企画設計及び当日運営支援	• 再委託先② • 南部町でのシャッフルキャンプの実施に向けた企画設計及び当日運営支援	• 再委託先③ • 与論町でのシャッフルキャンプの実施に向けた企画設計及び当日運営支援	• 再委託先④ • シャッフルキャンプの実施に向けた広報・認知活動の支援

自立化・自走化の検討

- シャッフルキャンプのような地域内外の関わりを生み出すプログラムを実施する体制としては、**中長期的には地域事業者が主催・主導**していくことが望ましいと考える。
- また、このようなプログラムを実施していく際の費用については、**①参加者負担、②地方公共団体負担、③企業負担といった複数手法の組み合わせ**で対応していくことが必要である。
- ①による収入をベースとしつつ、それだけは企画運営にあたっての費用を全て賄うのが困難なケースが多いため、**②で部分的に補完**していくことが重要である（例：宿泊施設の無償または減免利用、車両の無償貸与、備品の無償貸与等）。

横展開の可能性

- **他の教育団体や地域団体等との連携**によって、次年度以降の継続開催・他地域への横展開を狙う。
- 具体的には、**一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォーム*等との連携**により、様々な団体の有する地域ネットワーク・人的ネットワークを活用して**多地域展開を目指す**。

*地域・教育魅力化プラットフォーム：意志ある若者にあふれる持続可能な地域・社会の実現を目指し、「地域みらい留学」等の越境的なプログラムを実施。

令和４年度
関係人口創出・拡大のための中間支援モデル構築に関する調査・検討業務
業務実施報告書

団体名	株式会社あしたの寺子屋
事業名	都市部×地方部をごちゃまぜにした越境教育事業を通じた関係人口の創出・拡大
選択テーマ	まなび関係人口について（しごと関係人口について）

目次

1　課題の設定……2

1.1　事業の概要……2

1.2　事業実施地域の概要……2

1.3　関係人口の創出・拡大に取り組む目的……2

1.4　調査・検討すべき課題の設定……3

2　モデル事業の取組内容……4

2.1　取組の全体像……4

2.2　事業実施に係る運営体制……4

2.3　実施スケジュール……5

2.4　活動内容……6

2.5　課題解決のための取組……14

3　モデル事業としての成果検証……16

3.1　目標の達成状況……16

3.2　課題解決に向けた成果……16

3.3　その他の成果……17

4　今後の事業のあり方……18

4.1　自立化・自走化の検討……18

4.2　横展開の可能性……18

1　課題の設定

1.1　事業の概要

本事業は、教育×地方創生・関係人口創出に向け、都市部×地方部の子ども・大人が関わり合う「シャッフルキャンプ」という宿泊型プログラムと、全国各地の様々な子ども・大人がオンラインで関わり合う取組を実施するものである。

1.2　事業実施地域の概要

（1）北海道美幌町

人口 18,171 人（令和４年 12 月末時点）。まちの将来像として「教育・文化・スポーツなどが充実したまち」を求める割合が平成 26 年・平成 30 年に実施したアンケート調査で高まっている一方、町内における教育環境として地域外と関わる機会に乏しく、そのような教育機会の充実を図る必要がある状況（出所：『第６期美幌町総合計画』、町内の教育事業者へのヒアリング結果）。

（2）青森県南部町

人口 16,965 人（令和５年１月１日時点）。町として子育て・教育に注力し、授業料・給食費・学童の無償化、進学に際しての奨学金補助、国内・海外との交流等に取り組んできた一方、新型コロナウイルス感染症や少子化の影響を受け、交流事業や課外活動等が減っており、地域の子どもたちの社会性を伸ばす機会が失われてしまっている状況（出所：町内の教育事業者へのヒアリング結果）。

（3）鹿児島県与論町

人口 5,077 人（令和４年 12 月末時点）。島内に大学や専門学校がないため、10 代後半の町民の転出が多くなっている状況。そのような町民のＵターンを促進することや、観光等で島に関わりを持った人々のＩターンを促進することが重要であり、そのための一施策として、地域への愛着を育むとともに、地域外からの継続的な関わりを生む関係人口の創出・拡大が必要である状況（出所：『与論町総合戦略』、町内の教育事業者へのヒアリング結果）。

1.3　関係人口の創出・拡大に取り組む目的

人口減少・少子高齢化、新型コロナウイルス感染症の拡大等の社会的な動向を踏まえ、地域ごとに異なる教育環境も考慮しながら、まなび（教育）を梃子（てこ）に中長期的に地域に関わり続ける「関係人口」の創出・拡大を図ることを目的とする。人口減少・少子高齢化の中で、各地域がそれぞれの地域リソースのみに頼った教育課題解決には限界があるため、関係人口の創出・拡大に関する取組を通して、地域を飛び越えた教育環境をつくり出し、ひいては持続可能な地域づくりを目指すことが重要であると考える。

1.4　調査・検討すべき課題の設定

（1）都市部からの関わりの創出・拡大に関する検討課題

以下の２つを主要検討課題に設定する。

①都市部の子どもたちや保護者にとって、地方部での教育・学びの場に参加する価値とは何か？

②都市部の子どもたちや保護者が地方部と継続的に関わり続けられる仕組みとは何か？

（2）地方部の自立・自走した取組の実施・継続に関する検討課題

以下の２つを主要検討課題に設定する。

①地方部として、教育をきっかけに都市部との関わりを持つことの価値とは何か？

②地方部が自立・自走して取り組むために押さえるべきポイントとは何か？（体制・財源等）

2　モデル事業の取組内容

2.1　取組の全体像

以下の２つの取組を実施することによって、まなび関係人口の創出・拡大を図る。

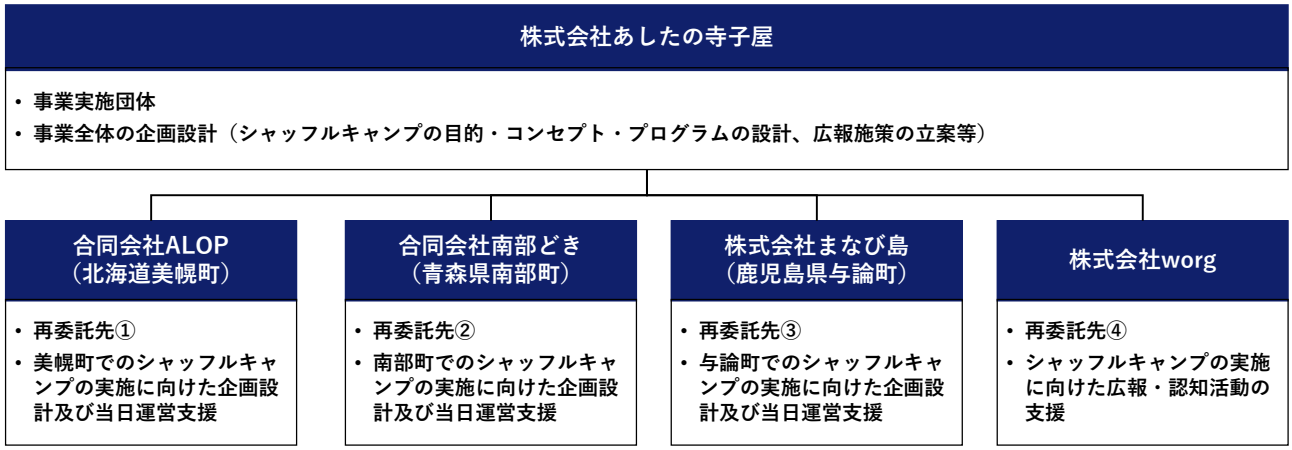
①都市部・地方部の子どもたちが体験活動やアウトプット制作等を行う「シャッフルキャンプ」

②都市部・地方部が継続的に関わり合うオンライン企画

2.2　事業実施に係る運営体制

（1）事業実施体制

「シャッフルキャンプ」の実施にあたっては、事業実施団体である当社が企画設計を担い、当社とのパートナーシップを締結している各地の寺子屋が運営を担う体制とした。また、参加者の集客や対外的な広報・認知活動については、株式会社 worg への再委託を行った。



また、オンラインでの取組にあたっては、事業実施団体である当社が企画設計及び運営を担い、適宜、パートナーシップを締結する各地の寺子屋からの協力を得て実施した。

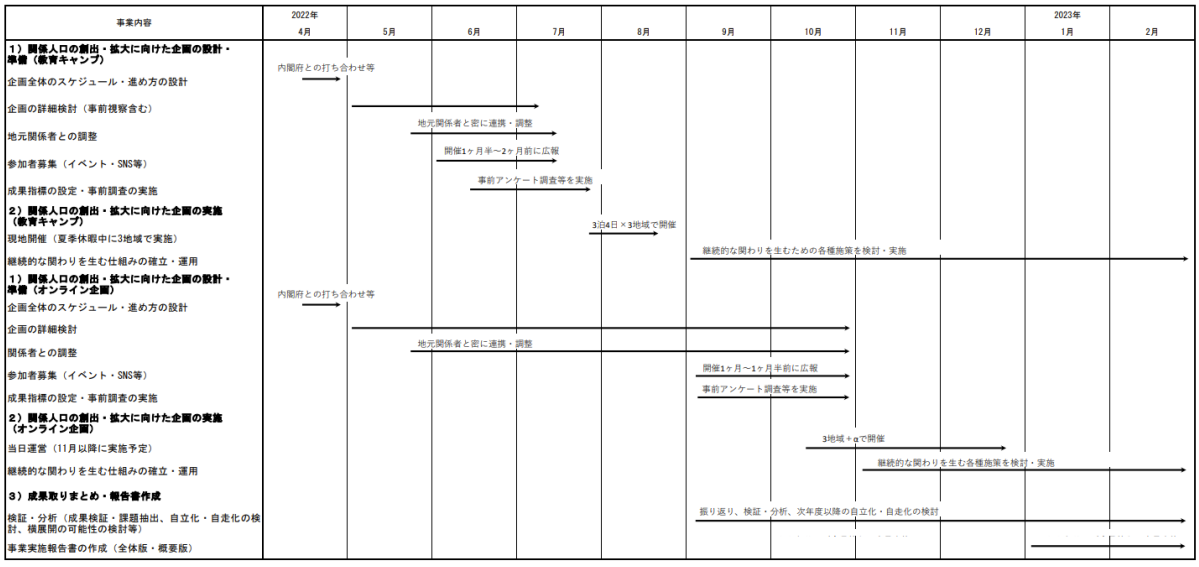
（2）事業実施団体及び関係機関の役割

団体名	役割
株式会社あしたの寺子屋	・事業実施団体 ・事業全体の企画設計や管理（進捗管理や成果管理等）
合同会社 ALOP	・北海道美幌町でのシャッフルキャンプ実施にあたっての再委託先 ・企画設計及び当日運営に係る支援
合同会社南部どき	・青森県南部町でのシャッフルキャンプ実施にあたっての再委託先 ・企画設計及び当日運営に係る支援
株式会社まなび島	・鹿児島県与論町でのシャッフルキャンプ実施にあたっての再委託先 ・企画設計及び当日運営に係る支援
株式会社 worg	・シャッフルキャンプ実施にあたっての再委託先 ・参加者集客や対外的な広報・認知活動等の支援

2.3　実施スケジュール

2022 年７～８月に３地域（北海道美幌町・青森県南部町・鹿児島県与論町）でシャッフルキャンプを実施し、その後、成果の取りまとめ（報告レポートの作成等）や次年度以降の自立・自走の検討を行った。また、2022 年９月以降から、オンラインでのまなび関係人口の創出・拡大に向けた企画運営を行った。具体的には、下表の通りである。

事業スケジュール



2.4　活動内容

（1）シャッフルキャンプ

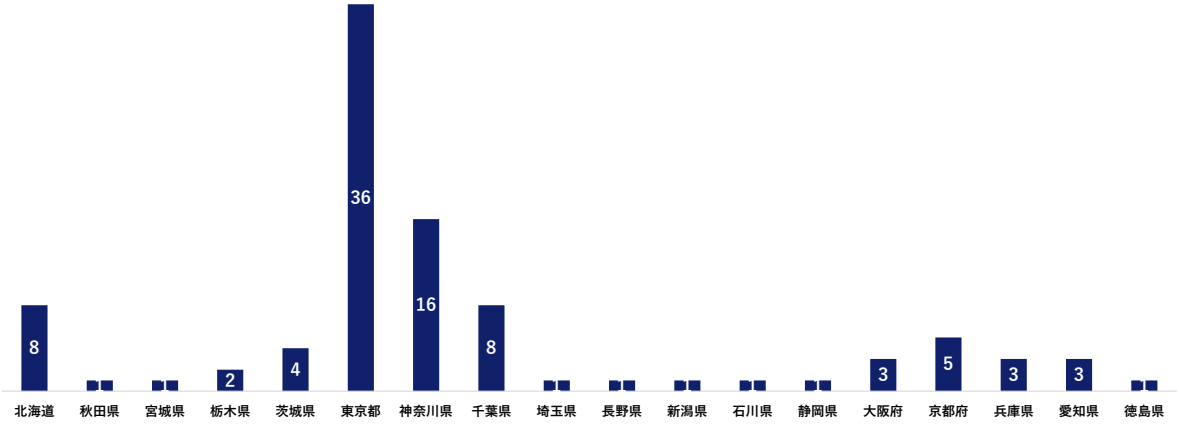
① 広報・認知活動

前述の通り、株式会社 worg への再委託を行い、同社の有する専門的な知見・ノウハウを生かして、全国各地の小学生～高校生及びその保護者に対する広報・認知活動を行った。具体的には、１）保護者層に響くキーワードを入れ込んだプレスリリースの作成、２）シャッフルキャンプのコンセプトや魅力を表したキービジュアルの制作、３）他の団体との連携を通じた発信活動、４）各種 SNS（Facebook や Twitter）での発信活動等を実施した。

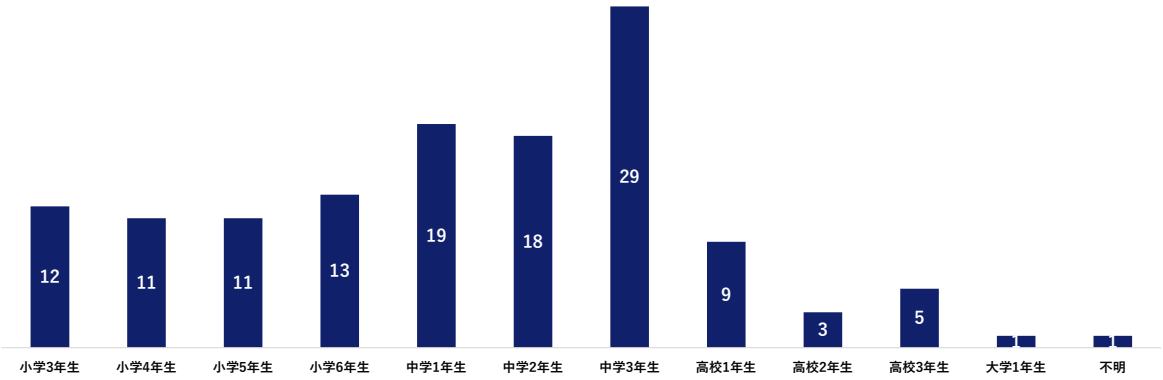
今回制作した「シャッフルキャンプ」のキービジュアル

このような活動の結果として、事前説明会には約 100 名の申込があった（２回分の合計）。また、３地域でのシャッフルキャンプには計 36 名の申込があり、南部町・与論町では定員を超過した。なお、説明会には北海道及び関東（東京・神奈川・千葉）からの申込が多かったものの、関西やその他地域からも申込があり、全国各地に一定の認知を広げることができたと言える。また、学年についても、小学３年生から高校３年生までの広い世代から申込があり、様々な広報・認知活動の成果として偏りがなく関心を集めることができたと考える。また、申込の流入経路を見ると、「DM（ダイレクトメール）」が最も多く、「Web メディアの記事」「プレスリリース」「関係者の Facebook」「知人からの紹介」と続く。特定の手法に依存せず、多様なアプローチによって幅広い層へのリーチを行い、参加者集客を図ることができたと考える。

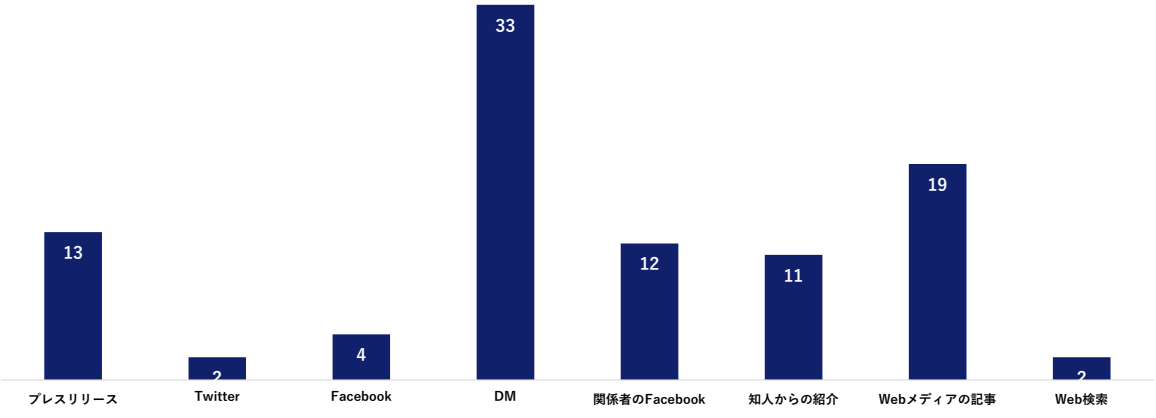
説明会申込者の居住地（都道府県）



説明会申込者の学年



説明会申込の流入経路



② シャッフルキャンプ当日

北海道美幌町・青森県南部町・鹿児島県与論町の３地域で３泊４日のプログラムを実施した。その地域ならではのコンセプトを検討し、それに応じた対象を設定した。また、単なるサマーキャンプや旅行ではなく、地域との繋がりを深めるためのアウトプット制作をプログラムの中核にした。それぞれの開催概要については以下の通りである。

＜北海道美幌町＞　※詳細については、実施報告レポート https://onl.bz/jxDXLfc 参照。

北海道美幌町 開催概要

コンセプト	北海道オホーツクの大自然で 「地球のツナガリ」を学ぶサマーキャンプ
内容	網走川を舞台に源流から海までを体感し、 その学びをアウトプットで表現する3泊4日
日程	2022年7月29日（金）～8月1日（月）
対象	全国各地の小学3年生～中学1年生
主催	株式会社あしたの寺子屋
運営	合同会社ALOP

当日の様子

アウトプット（ポストカード）づくり

ただ自然体験をするだけ、ただ楽しむだけではなく、体験したことを表現するためのアウトプットづくりを行いました。
家族や友達などの「思いを馳せる」相手の顔を思い浮かべながら、自分たちが実際に行って撮影した写真の中から、
その人にピッタリの1枚と贈りたい言葉を入れたポストカードを制作しました。

「誰か」のことを想像する

普段とは違う環境の中で、普段とは違う体験をしたからこその思いを込める。「どうしたらうれしいかな、とたくさんたくさん考えた。パパやママがんばってくれてることに気づいた」という感想も。

「いい記憶」を残す

制作したポストカードは印刷して各家庭へ。
家庭でのコミュニケーションを生み、時間が経って見返しても記憶が思い起こされ、ずっと「いい記憶」として残り続ける。

実際に制作したポストカード（一部）

©2022terakoya for tom

実施結果

居住地・年齢・考え方などの異なる多様な他者との交わり（＝シャッフル）を通じて、「違いへの気付き」を得て、「他者・地域への関心・愛着」を育むことに繋がりました。

違いへの気付き

自分が住んでいる地域との違いや普段関わっている人との違いに気付き、違うからこその見方・考え方を知ることができました。他方、住む場所やこれまでの経験が違っても大して変わりはないという気付きを得る参加者もいました。

感想（一部抜粋）

- 都会と田舎のものの見方に驚いた
- そこの地域の方言とか、住んでる環境の違いで、それぞれの気づくことが面白かった
- 違うところに住んでいても、自分とそんなに変わらない

他者・地域への関心・愛着

そこで出会った他者（子ども・大人）や地域そのものに対する関心や愛着が湧き、「また会いたい」「また行きたい」という思いが強く育まれ、日常に帰っても思いを馳せる対象が増える体験になりました。

感想（一部抜粋）

- またみんなで集まって何かが出来たらうれしいです。また参加したい！
- 旅行でも北海道に行くし、将来、自分が大学生や社会人になったら北海道に移住したいです！
また、会いましょう♪(*^^)o∀*∀o(^^*)♪

©2022terakoya for t

＜青森県南部町＞　※詳細については、実施報告レポート https://onl.bz/rNYKS1N 参照。

青森県南部町 開催概要

コンセプト	人生を楽しくサバイブするためのきっかけを掴むサマーキャンプ
内容	チームでの農業体験を通して食の大切さを学び、晩さん会を設えることで「ご馳走」の意味を考える
日程	2022年7月30日（土）～8月2日（火）
対象	全国各地の小学5年生～中学3年生
主催	株式会社あしたの寺子屋
運営	合同会社南部どき

当日の様子

晩さん会

「皆がハッピーになれる晩さん会を開催する」というミッションのもと、農業体験を通じて獲得した食材を用いて、お世話になった方々に対しておもてなしをする晩さん会を3日目に行いました。日常から離れたサバイバル体験を通じて課題を解決する力、人や食を大切にする心を育むことを目的にしました。

相手に思いを馳せる

「どうしたら皆がハッピーになれるか？」をとことん考え、妥協せず話し合って晩さん会をつくり上げる。「大変だったけど、農家さんに楽しんでもらえて嬉しかった」と、相手を思いやる気持ちを養った。

食の大切さ、ご馳走の意味を知る

コンビニやネットショッピングによって欲しい物が簡単に手に入る時代の中で、晩さん会を設えることを通じて「ご馳走」の意味を考える。そこで知った食の大切さは日常生活に帰っても残り続ける。

「それってうちらは楽しいけど大人の人たちはハッピーかな？」「お金がないんだから絵を描いたり木の実を飾り付けしたらいいじゃん」と皆がハッピーになれる晩さん会を真剣に考え、おもてなしをする様子

©2022terakoya for tomorrow

当日の様子

新聞記事制作

3泊4日を振り返り、デーリー東北に掲載するための記事制作を4日目（最終日）に行いました。
9月3日と9月10日の2回にわたって特集記事が掲載され、実際の紙面は各家庭にお届けしました。

新聞記事制作の様子

実施結果

居住地・年齢・考え方などの異なる多様な他者との交わり（＝シャッフル）を通じて、「違いへの気付き」を得て、「他者・地域への関心・愛着」を育むことに繋がりました。

違いへの気付き

住んでいる地域との生活環境や言葉の違いを体感し、参加した子どもたちそれぞれの住んでいる地域のことを話すことによって、様々な違いに気付く経験をしました。

感想（一部抜粋）

- 東京では、感じることの出来ない自然を感じ、友達と仲良くなれた
- 言葉が独特で分からないことがあった
- 方言の違いや生活習慣の違いを知った
- 色々な場所から来ているからこそ、楽しく話せたし、それぞれの住んでいる地域の話をできた

他者・地域への関心・愛着

そこで出会った他者（子ども・大人）や地域そのものに対する関心や愛着が湧き、「また会いたい」「また行きたい」という思いが強く育まれ、日常に帰っても思いを馳せる対象が増える体験になりました。

感想（一部抜粋）

- また行きたいと思った、めっちゃ楽しかった！！！
- 全国各地から集まった人でして、会える機会が少ないと思うから、また会う機会が欲しい
- もう何泊かしたかった
- 青森で長く過ごしてみたい

©2022terakoya for tomorrow

＜鹿児島県与論町＞　※詳細については、実施報告レポート https://onl.bz/eHC96Q5 参照。

鹿児島県与論町 開催概要

コンセプト	南島の自然と琉球の歴史、 島人の魅力に迫るサマーキャンプ
内容	マリンアクティビティや歴史・文化体験を通じて、 島とそこに暮らす人の魅力に触れる3泊4日
日程	2022年8月19日（金）～8月22日（月）
対象	全国各地の中学生～高校生
主催	株式会社あしたの寺子屋
運営	株式会社まなび島

当日の様子

アウトプット（ポスター）づくり

ただ自然体験をするだけ、ただ楽しむだけではなく、地域の中で出会った人の魅力を表現するためのアウトプットづくりを行いました。島の子どもたちと島外から参加した子どもたちがペアを組み、島人に対してインタビューを行って情報を集め、それをもとにその人の魅力を最大限に表現するポスターを制作しました。

相手に思いを馳せる

インタビューで受け取った情報をもとに、その人の魅力を表すキャッチコピーを試行錯誤しながら考案。「納得できるものに仕上げる為に、大変だったが集中して取り組めた」と、渾身の一作をつくり上げた。

「いい記憶」を残す

制作したポスターは印刷して各家庭に届けると共に、島内にも貼り出すことによって、ずっと残り続けるコミュニケーションツールに。苦労して制作したため、その人のことを記憶からいつでも思い出せる。

ポスター制作後の様子

役場に貼り出されている様子

©2022terakoya for ton

実施結果

居住地・年齢・考え方などの異なる多様な他者との交わり（＝シャッフル）を通じて、「違いへの気付き」を得て、「他者・地域への関心・愛着」を育むことに繋がりました。

違いへの気付き

島の子どもたちと島外から参加した子どもたちそれぞれの生活環境やこれまでの経験の違いを知り、普段の生活の中では得られない気付きや発見がありました。

感想（一部抜粋）

- 普段は感じられない広大な自然を感じたり、初めての体験をしたりすることができた
- 東京ではできない体験が新鮮で面白かった。島の人たちが優しくて、つながりの範囲も広いと感じた
- 東京から来た子が初めて海に入ったと聞きびっくりした。島内の友達とは違う都会の話を聞けて面白かった

他者・地域への関心・愛着

そこで出会った他者（子ども・大人）や地域そのものに対する関心や愛着が湧き、「また会いたい」「また行きたい」という思いが強く育まれ、日常に帰っても思いを馳せる対象が増える体験になりました。

感想（一部抜粋）

- 与論の海や自然に触れていると、無心になれるからまた行きたい
- 海もきれいで島人も優しいからまた行きたい
- 海にもっと入りたい
- 次年度もその後も、絶対また与論に行く

©2022terakoya for ton

③ アフターフォロー

３泊４日だけの関わりにせず、中長期的に地域に関わり続ける関係人口化を図るために、１）継続的な情報発信、２）現地運営者による継続的なコミュニケーション等を行った。１）については、主に３地域それぞれで作成した LINE グループでの情報発信を指す。当日の活動を取り上げたメディア掲載結果の共有（道東テレビの YouTube チャンネルの動画、デーリー東北の記事、奄美群島南三島経済新聞の記事等）、作成した報告レポートの送付、その他地域の活動の発信によって、地域のことを思い出すきっかけとなり、単発の関わりにならないように努めた。実際、参加した子どもたちの保護者からは「今でもシャッフルキャンプ当日のことを家で話している」といった声が出ている。また、再委託先である各団体からは「今でも参加した子どもたちから連絡を受けることがある」といった声が出ており、強固な関係を築くことができていると言える。

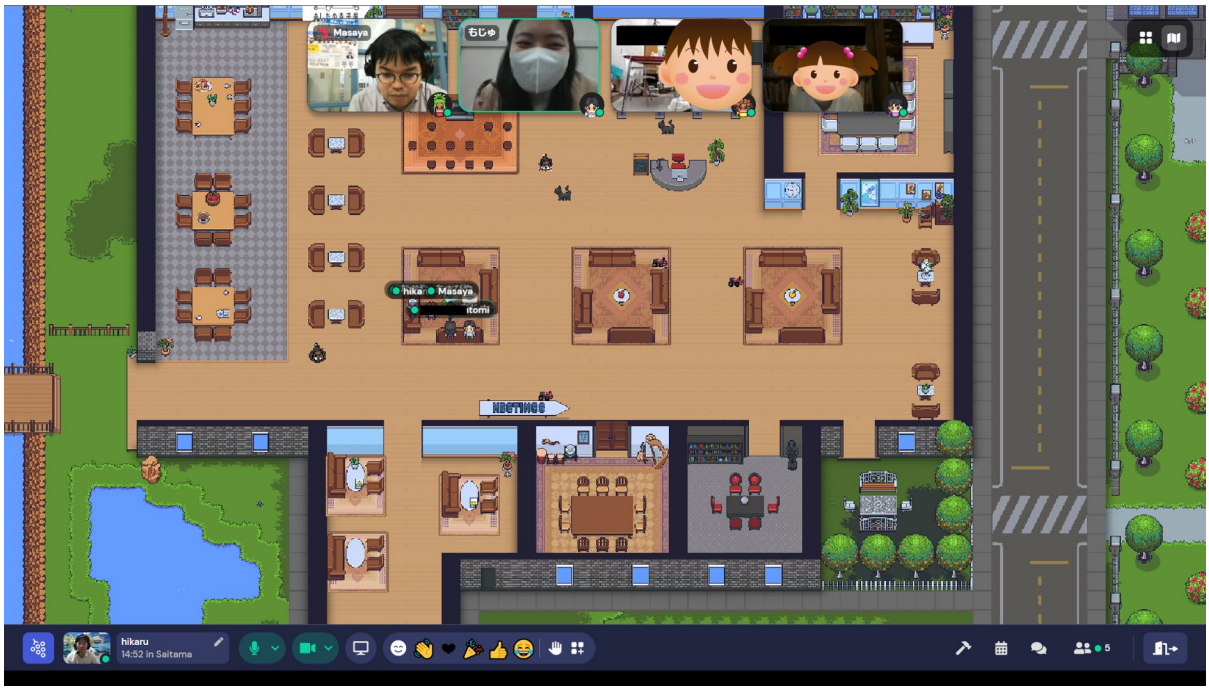
また、参加者及びその保護者に対する発信のみならず、今回は参加できなかった潜在的参加者層等に対する発信活動も実施した。具体的には、１）説明会申込者（うち本参加しなかった方々）への発信、２）各種 SNS（Facebook や Twitter）での発信、３）興味関心層への個別アプローチ等を行った。その結果、「シャッフルキャンプの報告レポート、最高です！本当に本当に素晴らしいコンセプト！うちの子どもも送り込みたい！」「子どもたちの率直な声いいですね。逆にそれだけこういう機会に飢えているんだなとも思いました。このような機会を途絶えさせずに続けていってほしいです」等の意見を受け、継続開催に対する強いニーズがあることを確認した。

（2）オンライン企画

当社がパートナーシップを締結する各地の寺子屋と他の地域が、オンライン上（Zoom や Gather*）で交流できる空間を創出して、地域間の繋がりを生み出すことに取り組んだ。オンラインツールの特性を生かし、多様な関わりを生み、相手の地域を知ること、その地域に行きたいという気持ちを育むことを目指した（*Gather：ドット絵 RPG 風のマップと Web 通話システムを組み合わせたもの）。

北海道・青森県・東京都・埼玉県・福岡県・鹿児島県等、全国各地の大人・子ども（主に小学生・中学生）がオンライン空間に集い、雑談等をしながら関係を構築し、地域に関するクイズを出し合うことや地域のことを調べる宿題を出す等の企画を実施した。それによって地域・人への愛着を育み、オンライン関係人口の創出・課題を目指した。

Gather で実施したオンライン企画の様子



2.5 課題解決のための取組

（1）都市部からの関わりの創出・拡大に関する検討課題に対する取組

① 都市部の子どもたちや保護者にとって、地方部での教育・学びの場に参加する価値とは何か？に対する取組

都市部から参加する価値を感じられるよう、現地の多様な人たち（子ども・大人）との交流を行うことができる機会を多数設けた。地域外からの参加者は、その地域に息づく文化や価値観等に触れたいというニーズが強いと想定し、各地域の魅力・資源を生かしたプログラム設計とした。具体的には、美幌町ではオホーツクの大自然を感じられる内容、南部町では農業が盛んであることを生かした内容、与論町では琉球の歴史や文化を感じ取れる内容をそれぞれ盛り込んだ。

また、各地域では、再委託先の団体のみならず、他の様々な地域関係者との関わりを持つことのできるプログラム設計を目指した。美幌町では、カヤック体験や農業体験を行ったため、それぞれの体験先の方々との交流ができるようにした。南部町では、様々な農家からの協力を得て、共に食卓を囲むことができるようにした。与論町では、プログラムを通じたアウトプットであるポスターの制作に向け、地域で働く様々な人たちへのインタビュー機会を設けた。

都市部から参加した子どもたちからのリアルな意見等を収集するために事後アンケート調査を実施した。事後アンケート調査では、「今回のシャッフルキャンプは楽しかったか？」「もう一度、○○町に行きたいと思うか？」等の質問項目を用意し、地域外から参加する価値があったかどうかを検証した。

② 都市部の子どもたちや保護者が地方部と継続的に関わり続けられる仕組みとは何か？に対する取組

前述の通り、３地域それぞれで LINE グループを作成し、継続的に関わり続けられる仕組みを用意した。その中で様々な情報を発信することにより、単発での関わりにならず、地域及びその地域に暮らす人々への愛着が強くなっていたと推察する。

また、オンライン企画の中では、いきなり地域との強い繋がりを形成することはせず、まずは雑談等の軽い関わりを通じて人と人との関係を生み出すことを意識した。それによって異なる地域に住む人とオンライン上であっても関係を深められるきっかけをつくり、徐々にその人の住む地域に対する関心が高まり、結果的に関係人口化していくというプロセスを辿っていくように設計した。より具体的には、クイズ等の年代を問わず参加しやすい形式で地域・人に触れられる企画を用意し、それを通じて関係を深めていくことのできる設計とした。

（2）地方部の自立・自走した取組の実施・継続に関する検討課題に対する取組

① 地方部として、教育をきっかけに都市部との関わりを持つことの価値とは何か？に対する取組

シャッフルキャンプの事前準備段階において、単に都市部の参加者が地域を訪れるのではなく、地域関係者としても価値を感じることのできるような設計を意識した。具体的には、前述の通り、都市部の参加者が満足できるようにその地域の魅力・資源を生かしたプログラムを設計するとともに、地域側が「やりたい」「外の参加者に体験してほしい」と思える自主性を大事にした。すなわち、事業実施団体である当社がプログラムの具体的な内容まで厳密に定義するのではなく、当社が中間支援組織のような役割で大きなコンセプトや方向性を示し、地域側でそれを実現するような具体的な内容を企画するという役割分担で行った。その後、当社としてプログラム全体の品質管理を行うことによっ

て、地域の自主性を大事にしながら、全体として質の高いプログラムづくりを実現した。実施後には、再委託先を通じて地域の多様な関係者からの声を拾い上げることができるようにした。

オンライン企画の中では、当社がパートナーシップを締結する各地の寺子屋からの意見を収集するようにし、リアルな関わりだけではない価値を把握できるように努めた。

いずれの取組においても、再委託によって運営協力を得ている団体との間では、まずは企画全体に込める思いを共有することを大事にした。単に業務を依頼するという関係ではなく、共に地域の発展のために取組を進めていくパートナーになっていく過程で、思いが共有され、目指していく方向をすり合わせることが大事である。その上で、業務を進めていくにあたっては、業務内容の具体的な定義とその役割分担をしながら、価値を積み上げていける関係構築を目指した。

② 地方部が自立・自走して取り組むために押さえるべきポイントとは何か？（体制・財源等）に対する取組

再委託を行った各地域の事業者との丁寧な振り返りを行い、自立・自走して取り組むために必要なポイントは何かを検証した。具体的には、事前準備から当日運営に至る全体の取組を客観的に捉え、どんな成果を上げることができたか、その成果を上げることができた要因は何か、どんな課題があったか、その課題をどのように克服することができるかといったことを真摯に振り返り、次年度以降の自立・自走して取り組むことができるように検討を重ねた。

3 モデル事業としての成果検証

3.1 目標の達成状況

定量的・定性的な目標を概ね達成しており、本事業によって成果を上げることができたと考える。具体的な目標の達成状況については以下の通りである。

事業の目標・達成状況

目標	達成状況
シャッフルキャンプ参加者数：15～20 名程度	美幌町・南部町・与論町３地域合計で地域外から 21 名が参加しており、本目標を達成。
シャッフルキャンプ後に「また行きたい」と思う参加者の割合：８割以上	事後アンケート調査において、全ての参加者が「また行きたい」と回答しており、本目標を達成。
シャッフルキャンプ後に「同様の取組をまた行いたい」と思う地域の数：３地域	事後振り返りの中で、美幌町・南部町・与論町の各委託先事業者から「また実施したい」という意見が出ており、本目標を達成。
シャッフルキャンプ開催報告レポートの作成・発信による認知拡大・関係人口の創出	３地域それぞれの報告レポートを作成し、DM や SNS 等を通じて発信。好意的な反応を多く受け取っており、概ね本目標を達成。

3.2 課題解決に向けた成果

（1）都市部の子どもたち・保護者の関係人口化（課題（1）①②）

美幌町・南部町・与論町３地域合計で地域外から 21 名が参加し、全ての参加者が事後アンケート調査で「また行きたい」と回答したことから、関係人口の創出を実現することができたと考える。また、参加した子どもたちの保護者との間でも継続的なコミュニケーションを図ることができ、その地域に対する理解や愛着を育むことができていると推察する。シャッフルキャンプ実施から半年以上が経過した 2023 年２月現在でも、参加した子どもたちやその保護者から現地運営者に対するコミュニケーションが行われており、一過性ではない関係人口の創出を実現することができたと考える。

このような成果を達成することができたのは、プログラムの中核にアウトプット制作（ポストカード制作やポスター制作等）を据え、家庭に持ち帰ることのできる設計としたことに加え、美幌町・南部町・与論町それぞれで地域の資源や魅力を生かした体験プログラムを実施したこと、継続的なコミュニケーション手段（SNS グループ）を設けたことが影響したと考える。

（2）地方部における教育×関係人口創出に向けた取組意欲の向上（課題（2）①）

シャッフルキャンプを実施した美幌町・南部町・与論町それぞれの再委託先から「また実施したい」という強い意向があり（「地域にとってとても良い事業だと感じた」等）、また、その他の地域関係者も継続開催の意向を持っている様子であることから、本事業を契機に地方部にとってもプラスの影響を生むことができたと考える。単に同様の企画を再度行いたいということだけではなく、そこから地域関係者間の対話や議論が促進されており、地域活性化に向けた機運が醸成されたといえる。

（3）自立・自走に向けた認知拡大・関係者間の連携強化（課題（2）①②）

シャッフルキャンプ開催報告レポートの作成・発信を通じて多様な層に対するアプローチを行うことができ、一定の認知拡大を図ることができたと認識している。また、新聞や YouTube といった媒体でも取り上げられ、様々な層に情報を届けることができたと考える。従って、次年度以降に自立・自走に向け、潜在的な関心層の掘り起こしができたと考える。加えて、再委託先以外の地域団体や他の教育団体等とも成果を共有したことによって、自立・自走に向けた連携体制を構築することができている状態である。

3.3　その他の成果

（1）関係人口の創出・拡大に向けた関心の喚起

本事業で関わった様々な関係者（民間・行政）の中には「関係人口」という概念を知らない方々も一定数いたが、そのいずれも具体的な内容を知ると興味関心を示していた。また、それに教育を足した「まなび関係人口」という考え方にも強く関心を示しており、今後の取組拡大を図っていく上での手応えを感じた。

（2）まなび関係人口創出・拡大に向けた企画立案ノウハウの型化

地域関係者との協働や参加者に対する連絡等を滞りなく行っていくためには、そのノウハウの型化が必要である。そのため、一連の企画立案をどのように進めていくのかというプロセスの定義、そのプロセスの中で具体的にどのような業務が発生するのかという業務リストの作成、そのような業務を地域関係者との間でどのように分担するのかという役割分担表の作成等、企画ごとにカスタマイズが必要であるものの、本事業に限らず様々な事業で共通化できる考え方・ナレッジの共有に向けて検討を行った。

具体的には、以下の内容について整理した。

１）企画立案プロセス：いつ・どのようなことを行うかという大まかなプロセス

２）業務リスト：１）のプロセスの中で具体的にどのような業務を行うのかというリスト

３）役割分担表：２）の業務を誰が実施するのかを整理するための役割分担表

今後は、中間支援組織や地域関係者との間で共有するとともに、議論を通じて内容を深め、より実践的な考え方・ナレッジの共有に向けてブラッシュアップを行う。

4 今後の事業のあり方

4.1 自立化・自走化の検討

本事業においては、当社が主催、地域事業者が協力という体制を取ったが、自立化・自走化にあたっては、地域事業者が主催、当社のような全国各地にネットワークを有する団体が協力という体制で実施することが望ましいと考える。なぜなら、各地域がそれぞれ主体性を持ち、多様な地域関係者を巻き込んでこそ、関係人口の創出・拡大のための取組が推進されると考えるためである。他方、地域に一任するとプログラムの質を担保することや全国各地への広報・発信活動等が不十分になってしまう可能性があるため、当社のような団体との協働体制が重要であると考える。

また、このようなプログラムを実施していく際の費用については、①参加者負担、②地方公共団体の負担、③（地域）企業の負担といった複数手法の組み合わせによって対応していく必要があると考える。①による収入をベースとしつつ、それだけは企画運営にあたっての費用を全て賄うのが困難なケースが多いため、②で部分的に補完していくことが重要である。例えば、宿泊施設の無償または減免利用、車両の無償貸与、備品の無償貸与等によって、運営費用を可能な限り低減していく取組が重要である。今回のプログラムにおいても、宿泊施設の減免や車両の無償貸与等の協力を地方公共団体から得たことで、少ない負担で実施することができた。また、③については、このようなプログラムを行うことで、地域を新たなビジネス機会を捉えている企業や地域でのワーケーション等の機会を従業員に提供したいと考えている企業等にとっても関心が高いと考えるため、協賛等によって費用負担を図ることが可能である。

4.2 横展開の可能性

地域団体や他の教育団体等との連携によって、次年度以降に継続開催・他地域への横展開を狙う。

具体的には、北海道美幌町の場合、地方公共団体との連携は勿論のこと、今回の取組を SNS で知った地域団体との連携によって、プログラムの質をさらに向上して継続開催を目指す。また、他地域への横展開に向けては、一般財団法人地域・教育魅力化プラットフォームとの連携を図り、取組を推進していく予定である。同団体の実施する「地域みらい留学（高校生を対象とした国内他地域で学ぶための留学）」等の既存の教育事業との相乗効果も狙い、単体の事業だけではない形でより高い効果を創出することを目指す。

例えば、今回実施したようなシャッフルキャンプという短期間の越境プログラムに参加したことで、他の地域で学ぶことへの関心が高まり、長期間の越境プログラムである「地域みらい留学」に繋がるといった相乗効果を見込むことができる。このような取組を通じ、地域を飛び越えた教育環境をつくり出し、ひいては持続可能な地域づくりを目指していきたい。